

## 平成28年度第1回 知多半島圏域地域医療構想調整ワーキンググループ 会議録

- 1 日 時 平成28年6月27日（月） 午後2時から午後3時20分まで
- 2 場 所 愛知県半田保健所
- 3 出席者 別紙出席者名簿のとおり
- 4 傍聴人 3人
- 5 議 題 地域医療構想の素案について

### 6 会議の内容

(1) 開会のあいさつ （愛知県半田保健所子安所長）

(2) 議長の選出について

委員の互選により花井委員が議長に選出された。

(3) 会議の公開・非公開について

開催要領第5条第1項に基づき全て公開とした。

(4) 議題

ア 地域医療構想の素案について

(ア) 事務局説明

愛知県健康福祉部医療福祉計画課久野課長補佐から、地域医療構想の素案について、資料1、2、3及び参考資料に基づき説明。

○ 地域医療構想の素案については、平成28年5月25日（水）に開催された愛知県医療審議会医療体制部会で承認された。

○ 地域医療構想の素案

・ 地域医療構想の素案は6つの項目で構成している。

・ 1つ目の項目、「策定の趣旨」は、平成37年における地域の医療提供体制の姿を明らかにし、その地域にふさわしいバランスのとれた病床の機能の分化と連携を推進するためである。

・ 2つ目の項目は「本県の人口見通し及び医療資源等の状況」について、「(1)人口の見通し」は、本県の総人口は、平成25年から平成37年、平成52年と減少している一方、65歳以上人口は、平成25年、平成37年、平成52年と増加し、また、75歳以上人口は、平成37年には全国を上回る増加率である。

「(2)医療資源の状況」は、人口10万対の病院等の医療施設数、病床数及び医療施設従事者数は全国よりも低い、病床100床対の医療施設従事医師数及び病院従事看護師数は全国を上回っている。

・ 3つ目の項目は「構想区域の設定」について、「(1)入院患者の受療動向」をみると、尾張中部医療圏は自域依存率が非常に低く、多くの患者が名古屋医療圏に流出している状況である。

そのため、「(2)本県の構想区域の設定」は、これまでワーキンググループの説明と変わりなく、尾張中部医療圏と名古屋医療圏を統合して1つの構想区域とし、他の医療圏は、現状の2次医療圏をそれぞれ構想区域とする。

- ・ 4つ目の項目「各構想区域の状況及び課題」は資料3（状況）及び資料2（医療課題）により説明。
- ・ 5つ目の項目「必要病床数の推計」は、(1)構想区域ごとの医療需要の推計はこれまでの説明内容に変更なく、「パターンB」、東三河北部構想区域は「特例」により推計する。

(2)の都道府県間の医療需要の調整は、5都県と協議の結果、医療機関所在地ベースで算定することとした。

(3)構想区域間における入院患者の流入流出の調整は、構想区域間での調整を行わず、新たな病院が建設されるなど患者の流入・流出に大きな変化がある場合には、必要病床数推計の見直しを行うことを前提に医療機関所在地ベースで必要病床数を推計する。

(4)必要病床数の推計について当構想区域の必要病床数推計値は「たたき台」から変更はなく、4機能合計で「3,310床」である。

(5)在宅医療等の必要量の推計は、いずれの構想区域においても、平成25年と比較して平成37年の医療需要は増加する状況である。

- ・ 6つ目の項目「構想を実現するための方策」は、事務局案から一部修正しているが、資料3の54ページから55ページのとおり。
- 構想区域の状況及び医療課題：素案の4つ目の項目
  - ・ 「医療資源等の状況」及び「入院患者の受療動向」は資料3の24ページから26ページのとおり。
  - ・ 医療課題は、資料2及び資料3の26ページのとおり。
  - ・ 当構想区域の課題については、本日御議論いただき、必要に応じて追加等を行い、地域の医療課題を明確にしていきたい。
- 地域医療構想の策定予定
  - ・ 今後、当構想区域の医療課題、並びに、素案に対する御意見は、医療体制部会に報告し、各地域の御意見を踏まえ、素案を修正して、パブリックコメントの実施、関係団体への意見聴取を行った後、愛知県医療審議会において、地域医療構想の策定について答申をいただき、現時点の予定では、9月ごろを目途に公示したいと考えている。
- 地域医療構想策定後
  - ・ 地域医療構想は、医療法上、都道府県は「協議の場」を設け、関係者との連携を図りつつ、将来の病床数の必要量を達成するための方策、その他の地域医療構想の達成を推進するために必要な事項について協議を行うものとされている。
  - ・ 今後、医療体制部会で、「協議の場」の名称や設置・運営方法等を御審議した後、各構想区域に設置したい。

(イ) 質疑応答

○ 知多半島構想区域の医療課題

(半田病院 石田院長)

緊急性の高い救急医療について他の構想区域との適切な連携体制を構築していくことが必要であることが医療課題として書かれているが、これは、平成 25 年度時点の問題であって、現時点ではすでに公立西知多総合病院が稼働し、大学病院へ行かなければならない特殊疾患を除いてほぼ全てカバーができています。

ただ、名古屋南部に近い住民が名古屋医療圏で受療することがあるが、既に救急医療としては需要が満たされているのではないかと認識している。

地域医療支援センターは具体的にどのように機能していくのか。

(愛知県健康福祉部医療福祉計画課 久野課長補佐)

医療課題については、平成 25 年度のレセプトデータによる医療実績を基にしており、国の DPC 調査結果も平成 25 年度のものであるため、現状と解離していることは承知している。あくまでも例示であり、知多半島圏域として問題ではないということであれば、削除していただくなり、文言の修正をしていただければ良い。

2 つ目の地域医療支援センターについては、直接の担当でないので、具体的な方向性については回答しかねる。

(公立西知多総合病院 浅野院長)

半田病院の石田院長の話にあったように、昨年 5 月に公立西知多総合病院が開院し救急部門を強化するという事で「知多半島北部の救急医療を断らない。」ことを掲げて行っており、救急車の搬送台数も過去の東海市民病院及び知多市民病院の時代から約 1.6 倍に増えている。

ただ、実際に北部で救急医療に携わる者として感じるのは、やはり知多半島北部は他の医療圏とのインタラクションが大変強い場所ということである。現在の状況は、地元住民に如何に 2 次医療圏内に基幹病院があるかということを確認していただき、利用していただくかということが問題である。

(知多厚生病院 宮本院長)

知多南部消防組合の救急車の 82% ぐらいは、知多厚生病院に来る。知多半島圏域では知多南部消防組合は 90 数% 対応ができています。平成 25 年度の資料なので、平成 26 年、27 年については知多半島圏域全体の救急搬送の対応率はかなり改善されつつあると思う。

ただ、医療従事者、特に医師の数が少ないということが今後の問題かと思う。

○ その他の素案の記載について

(知多郡歯科医師会 飯嶋会長)

地域医療構想に関していろいろな施策の説明があったが、施策を実行するための

資金の裏付けはあるか。

(愛知県健康福祉部医療福祉計画課 久野課長補佐)

医療介護総合確保基金を活用して事業化を検討していくこととしている。

(知多郡歯科医師会 飯嶋会長)

歯科分野の地域包括ケアに関しては、機器やマンパワーが必要なので、構想だけではなく実現に向けていくための協議を持っていただきたい

(愛知県健康福祉部医療福祉計画課 久野課長補佐)

基金事業については平成 26 年度から実施しており、関係団体の皆様へ事業化の提案募集等を行っている。財源には限りがあるため 100%事業化は現在できない状況であるが、関係団体からの御提案に対して事業化できるものは実施させていただいている。

(東海市医師会 小嶋会長)

前回のこの会議で、入院受療率が 71 と驚くべき数字が出たと言って質問した際にとても誠実な対応を取っていただきありがとうございます。

さらに、なぜこのような数字になっているか、私たちが気付いていない問題点があるのではないかと必ず調べるべきである。

その中で私が一番大事なのではないかと思うことの一つは、この会議で慢性期の病床に変わるサービス機能付き高齢者住宅等施設の数が把握されていない。これらの代替施設が充分なのかという事も含めて考えなければいけない。我々の地域で、入院受療率が全国で一番低い数字が出て、我々の地域が最初に死に場所難民が出る地域になってしまうのではないかと感じているので、しっかり調べていただきたい。

(愛知県健康福祉部医療福祉計画課 久野課長補佐)

推計値は、国から提供されている推計ツールで算出されたものであるが、どのようなロジックで算出されているか、正直私どもはわからないため、数値の検証は難しいと考えている。

71 という数字が低いからいけないのかといった、そもそもの議論もある。提供可能な範囲内でしかデータを出すことができないが、今後、調整会議において検討していただければと考える。

2 つ目の受け皿の施設に関する御意見について、地域医療構想は医療計画の一部として策定するため、平成 30 年度からの次期医療計画の見直しの際に国からデータが提供されれば、見直す予定である。また、介護保険事業（支援）計画も平成 30 年度から次期計画となり、医療と介護の計画が平成 30 年度から揃うこととなるため、在宅に移行する際の受け皿については、介護の計画と整合性を取りつつ、必要な受け皿を整備していく必要があると考えている。また、国では、療養病床のあり方等

に関する検討会で中間報告がまとめられ、新たな施設類型について社会保障審議会特別部会で議論が継続されているため、国の動向を注視してまいりたい。

(東海市医師会 小嶋会長)

「死に場所難民を防ぐにはどうするか」ということはいつまでたっても議題にならず、早め早めのうちから在宅療養が充分であるかどうかという議論を早く始めないといけないという切実な思いがある。

是非、保健所はじめ皆さんで考えて、慢性期から退院していく受け皿と全部合わせたデータを出して、そのデータを見ながら話を進めないで死に場所難民が必ずいるということをお願いしたい。

(愛知県看護協会知多地区 白井支部長)

資料3の55ページ、ひし形の上から四つ目の、回復期とか慢性期の病床を考えた時に、在宅医療は本当に切っても切り離せない議論である。

現場にいて感じるのは、患者さんの意思決定について、がん医療の分野のみならず、非がん医療の患者さんにも意思決定があるということが県民や住民の御理解がまだまだ得られていない時代ではないかと感じたので、少し発言させていただいた。

(議長 (半田市医師会 花井会長))

今の御発言は、事前指示書という専門的な話も出てくるかと思う。

死に場所難民という言葉は確かに、定着している部分もあり、大きな問題だと思う。

(東海市医師会 小嶋会長)

病院関係者をお願いしているのは、フェーズごとの病床を考えるのと同じように、在宅、或いは施設がどの自治体にはどれだけあるかデータが見えるようにしてほしいと言っているだけである。

(議長 (半田市医師会 花井会長))

施設というより、看取り可能な施設と表現しないとなかなか難しいかと思う。

(半田市 藤田福祉部長)

私の昔の記憶では、療養病床数は国が減らしていくことを随分前に打ち出したと思う。知多半島は中部病院とか結核を中心とする慢性期の病院があったが、介護と医療の療養病床をどうするのかということで、愛知県はなかなか数を減らせない中で知多半島は減らしてきて優秀だといわれていたような気がする。

逆に、先回、小嶋先生と同じで、医療の施設が少ないということでは驚いて聞いた覚えがあるが、本当に今、何が市民にとって必要なのか、地域の格差をどうするのかというところについて、県の人々が先程わからないといった事

が実にショックである。これはきちっと系統立ててやるものだと思っていた。もう少し何が原因でどうあるべきか、ということも私たちも対応していくが、県でも対応をお願いしたい。

(愛知県健康福祉部医療福祉計画課 久野課長補佐)

地域医療構想に示す今後の主な施策については、県全体の方向性を示しているものであり、具体的な取り組みや方策については、構想策定後に検討していく。

先程わからないと言ったのは、必要病床数を推計する際に使用しているバックデータが、どのように使われて71という数字が出ているのかということ。

今後は、必要病床数と毎年の病床機能報告の結果を比較しながら不足する病床の機能をどう確保していくのか等を議論していく。地域医療構想は、病床を削減するために策定するものではない。

(議長 (半田市医師会 花井会長))

推定される死亡者数と受け皿となる看取りができる施設を含めたバランスが当然重要で、どれくらい足りないのかという話が議論になっていた。早いうちにおよその看取り可能な施設のデータを出していただけると在宅医として、我々の間に繋がる大事な話なので、私からもお願いしたい。

(5) 閉会のあいさつ (愛知県知多保健所柴田所長)

出席者名簿  
構成員

区 分	役 職 名	氏 名
市町	半田市福祉部長	藤田千晴
〃	常滑市福祉部長	岩田久喜
〃	東海市市民福祉部健康福祉監	坂祐治
〃	大府市健康文化部長	久野幸信
〃	知多市健康福祉部長	永井誠
〃	阿久比町民生部長	蟹江信裕
〃	東浦町健康福祉部長	馬場厚己
〃	南知多町厚生部保健介護課長	滝本功
〃	美浜町厚生部長	坂本順一
〃	武豊町健康福祉部長	新美周大
医師会	半田市医師会長	花井俊典
〃	東海市医師会長	小嶋真一郎
〃	知多郡医師会副会長	須知雅史
歯科医師会	半田歯科医師会長	畑中雅之
〃	東海市歯科医師会長	水野泰弘
〃	知多郡歯科医師会長	飯嶋英文
薬剤師会	知多薬剤師会長	榊原瑞輝
〃	西知多薬剤師会長	辰野智隆
〃	美浜南知多薬剤師会長	榎本治彦
愛知県病院協会	半田市立半田病院長	石田義博
〃	みどりの風南知多病院事務長	杉浦信道
医療保険者	愛知県国民健康保険団体連合会 保健事業推進専門監	河合美子
〃	NTPグループ健康保険組合 常務理事	加藤弘幸
〃	全国健康保険協会愛知支部 シニアディレクター	南 和宏
看護協会	愛知県看護協会知多地区支部長	白井麻希
医療機関	知多厚生病院長	宮本忠壽
〃	公立西知多総合病院長	浅野昌彦
〃	あいち小児保健医療総合センター長	服部義
〃	常滑市民病院副院長	中村 英伸
〃	知多リハビリテーション病院長	梶原敏夫

## 事務局

所 属	職 名	氏 名
半田保健所	所長	子安春樹
〃	次長	内藤宗秋
〃	総務企画課 課長補佐	藤井春美
〃	総務企画課 主査	田口洋子
〃	総務企画課 主査	八澤佳子
知多保健所	所長	柴田和顯
〃	次長	石井孝幸
〃	総務企画課 課長補佐	林本正樹
健康福祉部	医療福祉計画課 課長補佐	久野聖晴
〃	医療福祉計画課 主査	西郷 大樹